

1932(昭和7)年～2018(平成30)年

1. 経歴・狭山市との関わり

狭山市水野に6人兄弟の長男として生まれる。「水野の神童」と呼ばれ、文武に秀で、村の弁論大会や連合運動会でも「ヒロケン」の愛称で村中の人気者だった。東京学芸大学国語科を卒業、記者として雑誌社に勤務。27歳で狭山市議会議員となり、4期16年市政に貢献する。市議会議員在職中、狭山市立入間公民館長に就任し、地方文化の担い手として生涯学習の推進に務めた。郷土を深く愛し、水野の新田開発と入曽用水を掘り起こし、史跡「七曲井」の復元にも心血を注ぐ。また狭山市史編さん委員会副会長、狭山市童句研究会初代会長、童句振興会会長、「土家由岐雄先生を顕彰する会」代表等を歴任する。読売文化センターや狭山市民大学、狭山市、所沢市、川越市、入間市、府中市、あきる野市等で、童句講座や古典、郷土史の講座の講師を務めた。



2. 主な業績

1971年、公民館長在任中、「古典を読む会」、初の女性コーラス「グリーンエコー狭山」の発足。また「狭山を知る学習会」を立ち上げ、1974年、「狭山市郷土かるた」の制作、翌年『狭山市の散歩道―歴史と風物―』発刊。1988年、水野公民館での古典文学講座講師在任中、水野在住の狂言師山本家を訪問し、公的機関との協議を重ね、「狂言鑑賞講座」の実施で、1994年「狂言入間川を観る会」を発足させ顧問となる。同年、市民会館での第1回鑑賞会の開催に至り現在に継続されている。同年、『狂言入間川考』発行後、同会の発展と存続に努めた。1986年、童句創始者・土家由岐雄氏と出会い、「童句講座」を狭山台公民館で始め、自らも「広沢一岐」と号し童句の創作と普及に務めた。句集『みんなの森』『トトロの仲間』共著、2010年、童句集『少年期』を発行。平成27・28年度さやま市民大学・狭山地域ふるさと学講座「古典・古歌に描かれたふるさと」「狭山から発信する詩集・童句の魅力」の講座を担当する。狭山市立南小学校、入間中学校校歌の作詞。



3. 特筆

狭山市文化団体連合会設立時より、理事や実行委員として積極的に関わり、第1回芸術祭では実行委員長を務める。また郷土史家として、ページェント劇「さやまいまむかし」の舞台制作に資料を提供し、公演の大成功に貢献した。第8回企画公演「春ものがたり」の脚本、演出なども手がけた。

年齢を感じさせない容姿、話し方、内容の深さ、熱のある講義で各講座サークルの人気を博していたが、2018年1月30日早朝に急逝した。その日も講座の日だった。

〈参考文献〉『市民文芸さやま第23号』・童句集『少年期』

狭山市文化団体連合会「狭山の文化人を知ろう」プロジェクト

文責・板屋 捷子 2025.2